

令和3年度 校内研究

- 1 主題 「学び合い活動を通して、『深い学び』につながる授業改善」
～基礎的・汎用的能力の育成により学びの主体性を引き出す取組～

2 設定理由

平成26年度に彦根市教育委員会の研究指定を受けたことをきっかけに、校区内の河瀬・高宮両小学校と共に、学び合い学習について研究を進めてきた。また、ここ数年は、非認知能力（自制心やレジリエンス、自尊感情等）の向上について「学びの礎ネットワーク事業」とも連携して取り組んでいる。

本校生徒は、体育大会や合唱コンクール等の行事には積極的に活動したり、定期考査前には力を入れて学習したりすることができるが、行事等のイベントの後は、目標を見失い学校生活全般にやる気をなくしてしまうところがある。本校では「行事ロス」という言葉で形容されるが、変化のない通常の学習活動だけの毎日には、自制心をもって根気よく努力を積み重ねることが困難な生徒が多い。また、保護者についても、学校依存傾向が強いことがアンケート結果で明らかになっている。これらのことから、生徒の非認知能力を育成するには、分かる喜びや学ぶ意義を実感させる学習指導が重要課題である。

今年度より、新学習指導要領の実施となり、新しい社会「Society5.0」の到来を見通して、変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと等が、学校教育で求められている。また、学校で学ぶことと社会との接続を意識させ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育み、いわゆる、「基礎的・汎用的能力」の育成は、生徒の学ぶ意義を実感させ、本校が取り組む非認知能力の育成と方向性が一致している。よって、「基礎的・汎用的能力」の育成は、非認知能力の育成に迫る有効な手立てであると考ええる。そこで、今年度の校内研究は、「基礎的・汎用的能力」の育成という視点を通して今までの授業づくりを見直し、生徒に分かる喜びや学ぶ意義を実感させ、主体性を引き出す校内研究を推進していきたいと考える。

3 研究仮説

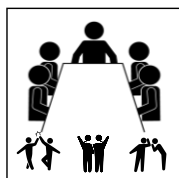
「基礎的・汎用的能力」の視点を取り入れ授業づくりを見直し整理することで、生徒に分かる喜びや学ぶ意義を実感させる授業が展開され、生徒の学びに向かう主体性を引き出すことができるだろう。

4 研究の視点

- 生徒の自立学習を促す具体策。
- 学び合いを通した、深い学びにつながる授業づくり。
- 指導と評価の一体化における具体策。

5 基礎的・汎用的能力

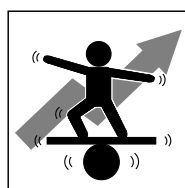
○人間関係形成・社会形成能力 （*人とのつながり）



多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等。

○自己理解・自己管理能力 （*自分とのつながり）



自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。

例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等。

○課題対応能力 （*社会とのつながり）



仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

具体的な要素としては、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等。

○キャリアプランニング能力 （*未来とのつながり）



「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

具体的な要素としては、例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等。

*夢の手帖に示す「身に付けてほしい4つの力」で使われている言葉から使用

なお、基礎的・汎用的能力については、夢の設計図にある「身に付けてほしい4つの力」と対応しており、生徒とともに、「人とつながろう、自分とつながろう、社会とつながろう、未来とつながろう」という言葉を使って共通理解していく。

6 研究・研修計画

月	研究内容			
	全体の動き		チームの動き	
	推進委員会・全体会	教科部会・学年部会	学習意欲向上チーム	授業研究推進チーム
4	28日(水)職員会議 校内研究(案)… 研究主題、内容の確認、部会別実践内容	・学年部会(チーム分け、研究授業の計画)	研究の方向性の決定、活動内容の確認	
5	12日(水) 全体会/各部会 研究方法の確認、各部会の取組	・教科部会(共通課題の確立、学習の手引見直し) ・チーム別会(実践内容確認)	各チームの実践内容の確認、全体の周知	
6	8日(火)推進委員会 9日(水)礎全員研修…(河瀬小)… 17日(木) 授業研究会(3年)	・教科部会(研究授業計画、指導案検討)	実践	
7	7日(水)推進委員会 27日(火)校内研究会 28日(水)礎全員研修(AMふたば保・PM南地公)	・学年部会(アンケート結果から2学期の対策を考える)		
8			1学期を通して各チームのふりかえり、交流	アンケート実施
9	6日(月)推進委員会 8日(水)校内研究会…部会交流、教科部会	・教科部会(家庭学習やグループ学習等についての共通理解)	各チームの実践内容の確認 全体の周知	
10	25日(月)推進委員会		実践	
11	17日(水)礎全員研修…(高宮小)… 18日(木) 授業研究会(2年)	・教科部会(研究授業の計画、指導案の検討)		
12	23日(木)各部会		2学期を通して各チームのふりかえり、交流	アンケート実施
1	6日(木)推進委員会 14日(金)礎全員研修(授業研究会1年道德彦中 道德講話) 28日(金)推進委員会	・教科部会(研究授業の計画、指導案の検討)	各チームの実践内容の確認、全体の周知	
2	16日(水)各部会 まとめ		年間を通して各チームのふりかえり、交流	

7 研究体制と内容

【校内研究推進委員会】 (校長・教頭・研究主任・副主任・チーム長・加配代表・教務・学年主任)		
【授業研究会】(全員)		
【学習意欲向上チーム】と (検証チーム) (礎事業「関係づくり」)	【授業研究推進チーム】と (検証チーム) (礎事業「授業改善」)	

※検証チームは、2つのチームに所属し、アンケート集約をしてチームで検証する。

【校内推進委員会】

研究の方向性を決めて体制づくりを行い、企画・運営を行う。管理職は、指導助言を行う。

【授業研究会】(全員)

- ・1学期は3学年、2学期は2学年、3学期は1学年が研究授業を行い、参観や授業後の協議会は全員で行う。
- ・研究授業は、生徒が学び合う活動がみられる授業を公開し、学び合いの姿の見取りから授業協議会を行い、授業改善につなげる。(主体的・対話的で深い学び、読み解く力)
- ・講師を招いて、指導助言をいただく。(研修)
- ・研究授業を実施する教科は学年で決定する。(1年生は道德)
- ・市の青年教員研修や各教科の指定研究授業と重ねることも可能である。
- ・研究授業を実施する前に教科部会を開き、各教科における単元や授業を通してつきたい力を「基礎的・汎用的能力」の視点から確認を行い、学習方法について検討する。

【学習意欲向上チーム】

- ・学級活動において、「基礎的・汎用的能力」の視点からの振り返りを行い、次の目標設定へとつなげていく取組を行う。
- ・家庭学習の手引きを活用することで、家庭学習の内容を充実させ学習時間を確保させる取組を行う。
- ・道德、人権教育、学級経営の中で子どもと子どもをつなぎ、様々な経験を通して学ぼうとする意欲を高める取組を行う。

【授業研究推進チーム】

- ・生徒と教師が共に授業4つのルールを意識し、めあてや課題に対する振り返り、まとめを行うことで、学習に対する主体性を育む取組を行う。
- ・生徒の学習改善や教師の指導改善につながる、指導と評価の一体化を図る取組を行う。